

館の運営方針	佐倉市立公民館運営の基本理念を踏まえ、地域の実態や動向に立脚し、住民の自主活動を育て援助しつつ郷土づくりの意識を一層高める。また、各人の生活課題をみつめ、生涯学習の場としての適切な運営に努める。
ジャンルの目標	自由時間の増加、少子高齢化の進展等の中で一人ひとりが自らの生活を見直し、心豊かで充実感ある人生を送るための学習の場を提供するとともに、学習を通じて地域の連携をはかり、その成果を生かしたまちづくりに貢献する。

★個別事業評価一覧

No.	事業名	事業の内容
①	しづ市民大学 しづ学入門	・自由時間の増加、少子高齢化の進展等の中で、心豊かで充実感のある人生を送るための学習の場を提供すると共に、学習を通じて地域の連携をはかり、その成果を生かしてまちづくりに貢献できるようしづ市民大学を開設する。 ・志津地区や佐倉の歴史・自然・文化を学び、その経験を通じて心豊かで住みよい地域の実現に寄与する。
②	しづ市民大学 地域健康学	・自由時間の増加、少子高齢化の進展等の中で、心豊かで充実感のある人生を送るための学習の場を提供すると共に、学習を通じて地域の連携をはかり、その成果を生かしてまちづくりに貢献できるようしづ市民大学を開設する。 ・健康学の学びを通して地域の連携を図り、その成果を生かした「まちづくり」に貢献することを目指します。
③	しづ市民大学 暮らし情報学	・自由時間の増加、少子高齢化の進展等の中で、心豊かで充実感のある人生を送るための学習の場を提供すると共に、学習を通じて地域の連携をはかり、その成果を生かしてまちづくりに貢献できるようしづ市民大学を開設する。 ・生活に密着した行政機関などの情報を提供し、地域への理解と関心を高める。
④	しづ市民大学 おやじの食事学	・自由時間の増加、少子高齢化の進展等の中で、心豊かで充実感のある人生を送るための学習の場を提供すると共に、学習を通じて地域の連携をはかり、その成果を生かしてまちづくりに貢献できるようしづ市民大学を開設する。 ・成人男性が食生活の大切さや和食を基礎とした食事づくりの楽しさを体験しながら、地域の中で仲間づくりをめざし、地域で活動するきっかけをつくる。
⑤	佐倉道を歩く	・かつて佐倉城主が参勤交代で通行した「佐倉道」を実際に歩き、城下町佐倉や周辺地域の歴史について理解を深める。
⑥	地産地消 佐倉コミュニティカフェを学ぼう	・高齢者の孤食等の食生活の悪化や子育て中の親のコミュニティ不足など、地域住民の交流の減少といった地域課題に対する解決策として、地域の住民が気軽に語り合える場としての「コミュニティカフェ」を学ぶ。また、佐倉の志津地区の家庭菜園等の野菜の活用し、地域活性化を考える。
⑦	学びあい講座しあわせへの整理収納 ～人とモノをつなぐ、子育て世代の整理収納～	・地域教育力の低下、地域コミュニティの希薄化が進む中、自らの居住する地域に目を向け、地域課題に対して関心を高める学習機会を提供し、自ら地域を形成していこうとする気概と行動を起こし、共に生き、支え合う地域づくりに寄与する人づくりを行う。
⑧		
⑨		
⑩		

★ジャンル総合評価

個別事業における、ねらい・運営方法・学習テーマ・対象者・講師・資料・広報等、事業全般		
企画	企画段階での課題と解決策	A A: 各個別事業の想定課題は正しかった。 B: 各個別事業の想定課題はまあ正しかった。 C: 個別事業の想定課題が違っていたところがある。 i: 途中で変更した。 ii: そのまま進めた。
実施	実施しての課題と解決策	B A: 各個別事業の想定課題の解決は進んだ。 B: 各個別事業の想定課題は解決はまあ進んだ。 C: 各個別事業の想定課題とは別の課題が出た。 i: 別の方向に進めた。 ii: そのまま進めた。
点検	点検しての課題と展望策	「しづ市民大学」においては、4つの専門コースそれぞれに生涯学習の視点を持ったカリキュラムの構成と学習内容の一部見直しを常に行う必要がある。「佐倉道を歩く」については、歩く距離が長いと、史跡見学場所や時間等のスケジュールを常に見直ししていく必要がある。「コミュニティカフェを学ぼう」については学習の継続が必要である。
改善	次年度への課題と展望策	B A: 事業拡大。 B: 現状規模での継続。 C: 事業縮小。 D: 目的達成により終了。 E: 統合・改善・その他 ()

総合評価	
A	事業規模 A: 適切で成果が得られている。 B: 課題あり、成果が得られている。 C: 課題あり、成果があまりない。 D: 成果が得られていない。 E: 現段階では判断できない。
	成果 「しづ市民大学」は、自らが学びたいコースを選択し学習することで、今後の地域活動や地域連携をはかるきっかけづくりとなっている。「佐倉道を歩く」においては、佐倉藩の城主が歩いた佐倉道を実際に歩き、城下町佐倉と佐倉道について学ぶ佐倉学講座として成果をあげることができた。「コミュニティカフェを学ぼう」では、地域の住民が気軽に語り合える場の必要性を確認することができた。
	課題 「しづ市民大学」は、応募する市民の方が多いため、抽選方法や募集人数、講座数について今後も検討していく必要がある。「佐倉道を歩く」では、コース上での安全確保や団体行動に引き続き十分な確保を行う必要がある。「コミュニティカフェを学ぼう」では学習内容が実際の活動に繋がることを支援する必要がある。

☆公民館運営審議委員意見

委員①		受講者の計が154名、三つのコースでそれぞれ19回実施。しかも内容が相当充実している。市民が自分自身の生活を見直し、心豊かで充実感ある人生を送るための学習の場の提供として、事業の目的は十分に達成されたと思います。
総合評価	A	

委員②		地域で活動できるきっかけ作りがさらに進むと良い。
総合評価	A	

委員③		おやじの食事学は、男性を対象として、参加者が145人もいるのは、大変素晴らしい。他の事業も内容が充実している。
総合評価	A	

委員④		男性の食生活(食事・料理)への、関心が高まっていて、自主的なサークルも立ちあがっていて、向上心があることが、感じられました。
総合評価	A	

委員⑤		しづ市民大学は、長く継続され、おやじの食事学についても学習内容の充実と学んだ人の満足度が高く、地域でも高く評価しています。修了記念集として製作した「楽習録」は、内容も充実した素晴らしい冊子です。受講生一人一人の成果と今後のことを想像して、地域の中でさらに活動してほしいと願いました。OBの活動にも連帯感があり、地域の自治会の役員などリーダーとなって活躍している人も多い。「楽習録」をできる限り、他にも紹介して、読んでいただきたいと思いました。資料を工夫してわかりやすい発表でした。
総合評価	A	

委員⑥		しづ市民大学のコースの中で、応募枠に比べ受講希望者が最も少ないのが、この食事学であった。他の地区からの応募者、参加者も最も少ない。女性が入っていないからだろうか…。いずれにしても、単なる男子厨房に入ろう会にはなっていないところが公民館活動なのだと思う。「市民大学」という冠が隠し味、うま味になっている。公民館の意図が、アンケート結果に見られるように、家庭づくり、仲間づくり、地域活動への入口となったということに結びついている。「食べる」料理から、「作る」「提供する」料理へと意識が大きく変わっており、地区社協活動への参加やこどもクッキング教室支援など、地域活動への取り組みも見られる。佐倉市の男女平等参画関係の審議会から、男女役割分担意識、慣行見直しの促進事業として評価もされている。学んでいることが分かりやすく、地域活動にも結びつきやすいということも、このコースの特徴の一つだと思う。幾度となく、卒業生による地域イベントで提供されるうどんを味わったことがある。味なことが続いていけばいいな、と思う。今期卒業生もサークルを結成しているが、独立した活動が、生き活きとして続けられることを期待する。卒業生の学習活動や地域活動を把握しきる必要はないと思う。風の便りでも十分だし、近況報告でももらう簡単な仕組みでもあれば事足りると思う。コミュニティカフェでも触れたが、コミュニティうどん屋ができたと思う。実際に就業、起業した人がいるのかもしれないが、群れられない男の居場所づくりとして、またコミュニティビジネスとして展開できるような講座内容も意識して組み入れていただければと思う。地域ボランティア活動を指向するだけでなく、まちの活性化も担っていく人材育成も目指してよいのではないか。それって公民館活動…ということになるのだろうか、もうそんな時代、状況ではないような気がしている。継続した取り組み、確かな成果を挙げていることから、総合評価Aと考える。個人的には、新館での、新たな展望=起業化をもったプログラムを期待する。
総合評価	A	

委員⑦		応募者・受講者の内訳を見ると、公民館の近隣だけでなく、臼井・千代田・佐倉地区からも応募があり事業に対する市民の意欲の高さを感じます。広範囲からの講師陣から学べることも意欲につながっていると思います。
総合評価	A	

委員⑧		受講者の平均年齢が69.8歳であり単身高齢者には必要な講座と感じました。栄養面、衛生面から専門職の講師により1年を通じて19回を開催することは企画側においても大変な苦勞であったと思います。食文化と言われる昨今、調理の楽しさ、食べる楽しさ、仲間づくりの楽しさを生涯学習として推進されることを期待します。
総合評価	A	

委員⑨		食を通し、おやじさんたちが生き生きしている姿が伝わってくる。いちばん評価したいのは、仲間作りや運営をスムーズにできるように講座の工夫(5項目)をしている点で、仕組みの作り方が素晴らしい。人気の事業ゆえ、受講後の各人のその後を知りたいと考える。以前、小学校の家庭教育学級に、地域を越えて来てくださった事をありがたく感じていたが、今後の展開にたいへん期待がもてる。
総合評価	A	

委員⑩		「しづ市民大学」は、各講座とも充実した内容で、受講者の満足度も高い。特におやじの食事は、今まで料理など作ったことのなかった高齢者を中心に、料理作りの基本・作る楽しさなどを学べる講座で、家庭でも学習したことを実践している人が多い。また、班ごとに料理を作り上げるため強い連帯感生まれています。意義のある事業です。
総合評価	A	

委員⑪		わかりやすいプレゼンテーションでした。文字の多い画面は、箇条書きの文章をひとつずつ表示するテクニックを使ったりした、よくできた作品でした。
総合評価	A	

委員⑫		内容も豊富でよく研究されている。班替えはマンネリ化を防ぎ、多くの人と交流を深める工夫など、取組みは素晴らしい。
総合評価	A	

委員⑬		企画運営委員会が組織され、年5回会合を持たれていることや「仲間作り」や「成果のまとめ」の活動などにも感心した。
総合評価	A	

委員⑭		「しづ市民大学」は地域住民への学習機会を提供し、一人一人の生きがいの発見と地域の仲間作りを通しての住みよい街づくりに貢献しています。志津地区は人口も多くより多数の住民への学習の場としての必要性が増えています。公民館も新しくなり、より多くの人に平等に学習機会が増える事を期待します。
総合評価	B	

委員⑮		全然料理が出来ない人から、作れる料理の幅を広げたい、という男性が、班ごとに協力・協働して料理を作り、また「しづ市民大学」共同のウオーラリーがあったりするプログラムの中で、①家で「自慢話」をしたり、②受講生相互の理解と話が弾むなどの効果があり、単なる「料理教室」ではない楽しい「おやじの料理学」だと思います。
総合評価	A	